行政調査特別委員会行政視察結果報告書

平成２５年１２月１２日

報　告　者	第３班〔　会派：グループ響　〕		
参　加　者	班長　青田 兆史	副班長　大門 陽利	齋藤 文明
	手塚 雅己	鷹觜 孝委	川村 寿利

◆視察項目

実施年月日	平成２５年１０月２１日（月）～ 平成２５年１０月２４日（木）	
視察目的	１　Ｂ級グルメの聖地（まち）久留米事業について	福岡県久留米市
	２　「日本一の地下水都市くまもと」の推進について	熊本県熊本市
	３　図書館指定管理者について	佐賀県武雄市
	４　グリーンツーリズム推進協議会の取り組みについて	長崎県大村市 おおむら 夢ファームシュシュ

視察先概要	久留米市	＊人　口：　302,402　人　＊面　積：　229.84　Ｋ㎡ ＊特　徴：　筑後川と耳納連山とに抱かれた福岡県南の中核都市。江戸時代は城下町、明治時代は軍都、戦後はゴム産業を中心とした商工業都市として発展。
	熊本市	＊人　口：　734,474　人　＊面　積：　389.54　Ｋ㎡ ＊特　徴：　清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境に恵まれ、熊本城をはじめとする優れた歴史遺産や豊かな伝統文化を受け継ぐ、九州中央の拠点都市。12年4月に政令指定都市となる。
	武雄市	＊人　口：　50,699　人　＊面　積：　195.44　Ｋ㎡ ＊特　徴：　佐賀県の南西部、1300年の歴史を誇る温泉とやきもののまち。JR、国道3路線、長崎自動車道・武雄北方ICがある西九州の交通の要衝。SNSを積極的に活用し、市の情報を全国に発信している。
	大村市	＊人　口：　90,517　人　＊面　積：　126.56　Ｋ㎡ ＊特　徴：　長崎県の中央部、長崎市・佐世保市の中間に位置する。東に多良岳県立公園を望み、前面を大村湾に抱かれた風光明媚なまち。長崎空港や長崎自動車道・大村ICなど交通アクセスの利便性が高いことから、公的研究機関の立地が進む。

個別項目	Ｂ級グルメの聖地（まち）久留米事業について　【福岡県久留米市】			
	視察先担当課	商工観光労働部　観光・国際課	添付資料	有　・　無

Ⅰ　視察要旨

１．Ｂ級グルメの概要

久留米市は、平成１７年２月の広域合併により、人口３０万人の豊かな自然と文化芸術、そして食文化など、多様な地域資源を持つ都市となった。

翌１８年に策定された「久留米市観光コンベンション振興基本計画」では、久留米を「訪れたい」、久留米に「住んでみたい」といった「まち」に育てていきたい、というビジョンが掲げられている。

一方、国も「観光立国」を目指すビジットジャパン・キャンペーンや地域資源を活用した「地域ブランドによる地域振興」など、様々な施策を打ち出している。そして、今日、多くの地域で「ご当地グルメ」を題材に「まちを　元気にしよう！」という活動が盛んに行われている。

「日本中が注目するＢ級グルメ都市久留米！」は、多くの人々のたゆまぬ努力と情熱で「元祖とんこつラーメン」、「焼きとり日本一」そして「筑後うどん」が『三位一体』となった、まちおこしを展開してきた。

※　ラーメン店　　１００店舗
　　焼き鳥店　　２００店舗
　　うどん店　　７０店舗

２．久留米市におけるＢ級グルメを活かした取り組み

・平成１１年

平成１０年、ゴム３社の１社（アサヒコーポレーション）が会社更生法を申請したことにより、雇用の問題を始めとして、久留米市に停滞ムードが漂っていたため、それを払拭するのにラーメン業界が組織化し主体的に下記の事業を行った。この事業は、行政が仕掛けたのではなく、業界が自主的に計画し、行政は後から財政的、人的支援を行った。

①　「とんこつラーメン発祥の地」を宣言

②　「ラーメンフェスタ in 久留米」を開催（平成１８年まで開催）

・平成１５年

平成１５年、久留米市郊外に大型ショッピングモールが建設され、中心市街地に影

響が出てきたことと、焼きとり情報誌の編集者が、ネット上で焼きとり店の数が「日本一」であることを発見したことから、町中に賑わいを取り戻せないかと、焼きとり業界が自主的に、下記の事業を実施した。

①　「焼きとり日本一」を宣言

②　「焼きとり日本一フェスタ」を開催（継続中）

・平成１６年

筑後うどん業界が、自主的に振興会を組織し、イベントというより手打ち体験など、食育に近い活動をしている。そして、業界の組織化に伴い３大Ｂ級ご当地グルメの下地ができてきた。

①　筑後うどん振興会発足

・平成１８年

①　「第１回B-1 グランプリ in 八戸」へ「久留米やきとり」参加

・平成１９年

①　「第２回B-1 グランプリ in 富士宮」にて次回開催地に久留米市決定

・平成２０年

平成１９年までの各団体の主体的な取り組みから、Ｂ級グルメのブームに乗り、Ｂ級グルメの聖地（まち）久留米実行委員会を位置づけ、平成２０年以降のイベントは、当委員会が実行することになった。

①　**「Ｂ級グルメの聖地」**宣言

（宣言の内容）

１．私たちは、力を合わせて「B-1 グランプリ in 久留米」を成功させ、『Ｂ級グルメの聖地　久留米』を全国にアピールします。

２．私たちは、『Ｂ級グルメの聖地　久留米』を訪れる全国のご当地グルメファンをほとめき（おもてなし）の心で温かく歓迎し
ます。

３．私たちは、「ラーメン」、「焼きとり」、「筑後うどん」の『三　大Ｂ級グルメ』をはじめとする、『Ｂ級グルメの聖地　久留米』の多彩なご当地グルメと豊かな食文化を、さまざまな機会を通じて全国に PR します。

②　「第３回B-1 グランプリ in 久留米」開催

（出店団体数：２４、来場者数：２０万３千人）

③　久留米食の祭典を同時開催

・平成２１年

①　「第１回九州Ｂ-1 グランプリ」開催

（出店団体数：１７、来場者数：１８万人）

②　「くるめ食の八十八ヵ所巡礼の旅」、中心商店街連携イベント開催

③　**地域づくり総務大臣表彰**受賞

・平成２２年

①　「Ｂ級グルメの聖地　久留米で満喫　食の巡礼２０１０」開催

（出店団体数：１１、来場者数：９万人）

※　中心商店街連携イベント＆久留米焼きとり日本一フェスタを同時開催

②　「くるめ食の八十八カ所巡礼の旅　遍路その弐」開催

③　「Ｂ級グルメの聖地　久留米で満喫　食の巡礼２０１１」は、東日本大震災発生により開催延期

④　ラーメンルネッサンス委員会事業として、とんこつラーメン発祥の地記念碑寄贈

・平成２３年

①　「第５回全国やきとリンピック in 久留米」開催

（出店団体数：７、来場者数：５万７千人）

※　久留米焼きとり日本一フェスタを同時開催

②　「九州Ｂ-1 フェスタ in 久留米２０１２」開催

（出店団体数：１１、来場者数：１５万人）

※　くるめ食の八十八カ所巡礼の旅 in 六角堂（六角堂広場）＆六つ門わくわくマルシェ（旧久留米井筒屋跡地東側）同時開催

③　「くるめ食の八十八カ所巡礼の旅　遍路その参」開催

・平成２４年

①　「ありがとう六角堂！久留米３大Ｂ級グルメが終結！！」開催

（出店団体数：４、来場者数：１万６千人）

※　六つ門わくわくマルシェ（旧久留米井筒屋跡地東側）同時開催

②　福岡県・江蘇省友好提携２０周年記念事業「日中食の祭典」開催

（出店団体数：１８、来場者数：２万７千人）

※　六つ門わくわくマルシェ（旧久留米井筒屋跡地東側）同時開催

③　「くるめ食の八十八カ所巡礼の旅　遍路その四」開催

３．Ｂ級グルメの聖地（まち）久留米実行委員会に対する市の支援

① 人的支援　　３部会の内、情報発信部会（Ｂ級グルメの聖地事業に係わる広報）を行政、巡礼の旅部会（久留米・食の八十八カ所巡礼の旅の企画・運営等）を商工会議所、イベント部会（イベント企画・運営・会場施設設置・管理）を観光協会が役割分担している。

② 財政支援　　平成２４年度の補助金　４４６万円

Ⅱ　事業の成果と課題

１．経済波及効果

①　「第３回Ｂ-1 グランプリ in 久留米」　　約　３６億１，５００万円

②　「第１回九州Ｂ-1 グランプリ」　　約　　５億８，０００万円

２．今後の課題

２日間のイベントの時は、多くの集客に結びついているが、日常的で継続的な集客に結び付かないことが、最大の課題である。

そこで、Ｂ級グルメの聖地（まち）久留米実行委員会では、「いつでも久留米に来て下さい」との思いをこめて、「ぐるめマップ」や「くるめ食の八十八カ所巡礼の旅通い帳」などの情報誌を作成している。

また、イベント集客数の約８０％が市内在住者であるため、イベントにも限界が見受けられる。今後は、福岡市をはじめ市街でのイベントにより、久留米の PR をはかる。そして、九州新幹線の効果が出てきたことも考慮し、鉄道事業社や旅行業社などと連携した営業に力を入れたい。

Ⅲ　視察所見

久留米市では、市の活性化、街おこしのため、食文化を中心に行政、商工会議所、そして、観光協会でひとつの実行委員会（Ｂ級グルメの聖地　久留米実行委員会）を設立して活動している。さらに、ラーメン業界、焼きとり業界、筑後うどん業界がそれぞれ自主的に組織化されている。このこ　とは、地域性があるかもしれないが、非常に感銘をうけた。当市においても、参考にすることがあるのではと考える。

◆視察結果（個別票）

個別項目	「日本一の地下水都市くまもと」の推進について			
	視察先担当課	熊本市環境局水保全課	添付資料	有　・　[無]

Ⅰ　視察要旨

日光市における水利用の形態は、生活用水、工業用水そして農業用水と大きく３つに区分され、水源は今市地域が地下水に多くを依存しており、他の地域では、そのほとんどが河川の表流水を主体に依存している。

一方、熊本市の水道水源は１００%地下水で賄っている、日本一の地下水都市である。熊本市民はみんな、豊富で良質な地下水の恩恵を受けていることから、豊富でおいしい地下水の仕組みと保全等について視察した。

Ⅱ　事業の成果・課題

１）地下水の仕組み・成り立ち → 「阿蘇の自然」と「人の営み」による地下水の恵み

1)熊本地域では年間約 2,000㎜、阿蘇山にいたっては約 3,000㎜ もの降雨量があり、降雨の多さが地下水に恵まれている要因のひとつになっている。(日本の年間平均降水量：約 1,700 ㎜)

2)阿蘇火山による火砕流でできた地層が水を浸透し易く、地下に豊富で良質な水が蓄えられる。

3)熊本城を築いた加藤清正公は、多くの土木工事、治水・利水工事を手掛け、白川の中流域に堰や用水路を築き大規模な水田開発を行った。この水田は水が浸透し易い土壌により、大量の水が地下に浸透して、ますます地下水が豊富になった。

２）地下水を守るために

○一部の地域では地下水の汚染が確認され、その汚染原因は工場などの薬剤や油の漏洩、農地での過剰な施肥や家畜の排泄物の不適切処理によるものであった。このようなことから、昭和 52 年 9 月に「熊本市地下水保全条例」を制定し、地下水保全に取り組む。

1)量を守るため　→水源かん養林の整備、水田を活用した地下水かん養、雨水浸透の促進、雨水の有効活用、節水市民運動

2)質を守るため→地下水質の監視、地下水の浄化及び汚染防止対策、硝酸性窒素削減対策

3)くまもと水ブランドの推進→環境教育・生涯教育、くまもと「水」検定、くまもと水守、くまもと水遺産、街なかの親水施設、

4)広域連携への取り組み→くまもと地下水財団の発足

このような取り組みが高く評価され、平成 20 年 6 月に、第 10 回日本水大賞グランプリを受賞した。さらに、地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が評価され、平成の名水百選に「水前寺江津湖湧水群」、「金峰山湧水群」の 2 ヶ所が選定された。

Ⅲ　視察所見

熊本市の地下水は、熊本市を含む 11 市町村からなる熊本地域に広がる地下水盆の帯水層に存在していることから、広域的な保全対策が必要であるため、熊本市では地下水を保全するための事業を、近隣地域と連携しながら様々な形で積極的に取り組みを行っていた。

近年、熊本市の地下水の減少化、そして一部地域での地下水の汚染は確認されているが、住民・事業者・行政等一体となった節水活動や地下水採取量の削減そして 500 本の井戸による的確な地下水質の監視、浄化対策・汚染防止対策等も実施しており、今後も確実に次世代に継承される。

自然と水の豊富な日光市においてもこのような取り組みや、健全な日光水の確保に更なる努力が必要不可欠である。

◆視察結果（個別票）

個別項目	図書館の指定管理について　　【佐賀県武雄市】			
	視察先担当課	教育文化学習課	添付資料	有　・　無

Ⅰ　視察要旨

10 月 23 日（水曜日）、人口 5 万人の片田舎・佐賀県武雄市において図書館の指定管理についての視察を実施した。市文化会館でおこなわれた午前11時からの視察は、東京都中央区、下関市教育委員会、日光市議会との 3 団体合同視察となった。初めての経験である。9 時からも他の 3 団体合同視察が同じ会場で行われたそうである。全国的に話題の施設であるので視察ラッシュの状況がうかがわれる。

(1) 旧図書館の状況

武雄市図書館は歴史資料館と併設という形で平成 12 年 10 月に開館した。蔵書数 18 万 8 千冊、敷地面積 10,160 ㎡、建設面積 3,260 ㎡、延べ床面積 3,630 ㎡、うち図書館 1,140 ㎡の施設で、開館日を平成 18 年度 270 日から平成 24 年度には 331 日に増やす等の努力にもかかわらず、平成 14 年度入館者数 294,685 人、平成 21 年度貸し出し冊数 381,156 冊をピークに減少を続け平成 23 年度は、255,828 人、352,312 冊にまで落ち込んでいた。

(2) 新図書館整備へ

平成 24 年の初頭に代官山蔦屋書店がオープンし、「カンブリア宮殿」というテレビ番組で放映された。たまたまそれを観た武雄市長の「市民のための図書館」のイメージと完全に一致したため、平成 24 年 5 月 4 日、『進展する高齢化社会の中で、豊かな生活を実現するための中核的施設として、武雄市図書館・歴史資料館をより市民価値の高い施設として運営するにあたり、CCC(カルチャーコンビニエンスクラブ)が運営する「代官山　蔦屋書店」のコンセプト及びノウハウを導入し、企画すること、及びそのための重要な手段として附属事業を展開することについて、武雄市と CCC が提携することについて合意』し、契約を締結した。

(3) 財政的もくろみ

従来、武雄図書館・歴史資料館は、年 1.45 億円で運営しており、今後、開館時間と開館日数拡大によって年 2.1 億円の運営費を見込んでいた。CCC との指定管理契約は、年間 1.1 億円の 5 年契約であり、充分な財政効果があると考えている。

(4) 整備の経過

締結に続く6月定例議会で図書館設置条例を一部改正し、指定管理者制度を導入。7月5日指定管理者選定委員会、7月6日個人情報保護審議会、7月臨時議会でCCCを指定管理者に指定。8月31日、協定書の締結。9月定例議会で改修、システム更新、ICタグ貼付けのための4.5億円の予算計上。(CCC側負担額は3.5億円及び、目的外使用部分の家賃支払い)。11月から3月まで改修工事・システム更新・タグ貼りを行い、平成25年4月1日に運営を開始した。

(5) 新図書館の特徴

全て開架の20万冊にのぼる蔵書数。600タイトルの雑誌が買えること。8万タイトルの映画・音楽CD・DVDがレンタルできること。文具が買えること。カフェダイニング「スターバックス」が併設されること。365日午前9時から午後9時までの開館時間。Wi-Fiに繋がった使用料無料の30台のiPadによる検索ITソリューション。そして何よりの強みは、企画会社CCCのノウハウを活かした経営である。

(6) 市民の期待度

新図書館構想に対する市民アンケート調査結果は、70.4%が「期待する」と答え、大半が午前9時から午後9時までという開館時間の延長や365日開館という開館日数の拡大に期待を示していた。期待するサービスとしては、スターバックスの出店、映画・音楽レンタル開始、Tカードが使える点、雑誌文具の販売と続いていた。

(7) 市民の満足度

開館後6ヶ月経過した2013年9月30日時点の来館者は、519,039人で前年比355%、図書貸し出し数は、300,031 冊で前年比 179%であり、開館後のアンケートでは83.1%の市民が、大いに満足あるいは満足と答えている。

Ⅱ　今後の課題

平成12年10月落成の建物を改装して利用しているため、雨漏り等で蔦屋側財産に被害を及ぼさないよう、建物の計画的なメンテナンスが課題といえば課題である。

Ⅲ　視察所見

九州の片田舎に、ぽんと代官山のお洒落な蔦屋書店が出現した感じである。販売は白、貸出は黒の区画とタグで分類された雑誌や図書を、スターバックスの自席に持って来てコーヒーを飲みながら自由に閲覧することが出来る。使用料無料のiPadを持って来て図書検索だけでなくネットサーフィンしながら談笑することも出来る。

借りたい本が見つかれば 6 台あるセルフカウンターの検知パネルに図書を載せて自分で借り入れ作業を行えばＴカードに 3 ポイントが付与される。

図書貸し出し利用者の 31.7％が、市外居住者。図書館利用登録者 28,229 人（人口 5 万人）の 93.9％がＴカードを選択し、うち 60.8％が市外居住者であり、視察当日の館内は視察中とおもわれる人々でごった返していた。

2013 年度グッドデザイン賞を受賞されたそうで、大変お洒落で話題性も今が旬の施設ではあるが、本当の意味で地域に根ざし愛される施設として継続できるかどうかは、未知数である。「数年後の姿を観てみたい。」と考えるのは意地悪であろうか。

◆視察結果（個別票）

個別項目	グリーンツーリズム推進協議会の取り組みについて【長崎県大村市】			
	視察先担当課	おおむら夢ファームシュシュ	添付資料	有　・　無

Ⅰ　視　察　要　旨

・具体的な取り組みについて

・今後の課題について

1　代表取締役　　山口成美氏

有限会社シュシュを専業農家８戸で平成 12 年（2000 年）に設立し、農業者の減少や高齢化により耕作放棄地が増える中、地域農業の活性化を図るため、直売所、加工所、農村レストランなどの農業交流拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」をオープン、都市住民との交流を行い、農業塾などによる農業後継者の育成も図っている。農産物直売所が増える中、後継者の育成と活力ある村づくりを目指し、様々な加工品やヒット商品を生み出し続け、来場者は年間 49 万人を誇る。
出荷農家の所得向上、雇用の増加などにつながり、地域の活性化、地域の拠点となっている。

２　グリーンツーリズムの取り組み

大村市グリーンツーリズム推進協議会（会員 40 名）を 4 年前に設立し、(有)シュシュが事務局として、観光農園や各種イベントのＰＲ、問い合わせ等に対応に当たり、地域の方や会員に喜ばれている。春のイチゴ狩り、田植え、夏のブルーベリー狩り、梨狩り、ぶどう狩りなどの体験、秋にはミカン狩り、稲刈り、芋掘り、栗拾い体験、冬にはソバ刈り・そば打ち、もちつき、炭焼き体験など一年中楽しめる体験メニューの外、大村公園の桜、菖蒲、シャクナゲ、彼岸花、コスモス、菜の花等まさに行政と一体となって地域をあげた取り組みを行っており、現在、農家民泊にも 7 戸の農家で対応し、視察を希望する人達にも、民泊してもらい勉強してもらう機会を設けている。

また、婚活の機会を 6 年前より実施して、現在までに 22 組のカップルが誕生している。

地域活性化には混浴がいい、客が満足して喜ぶものを提供するのがグリーンツーリズムであると、山口社長の熱く語る姿に自信が満ち溢れている。

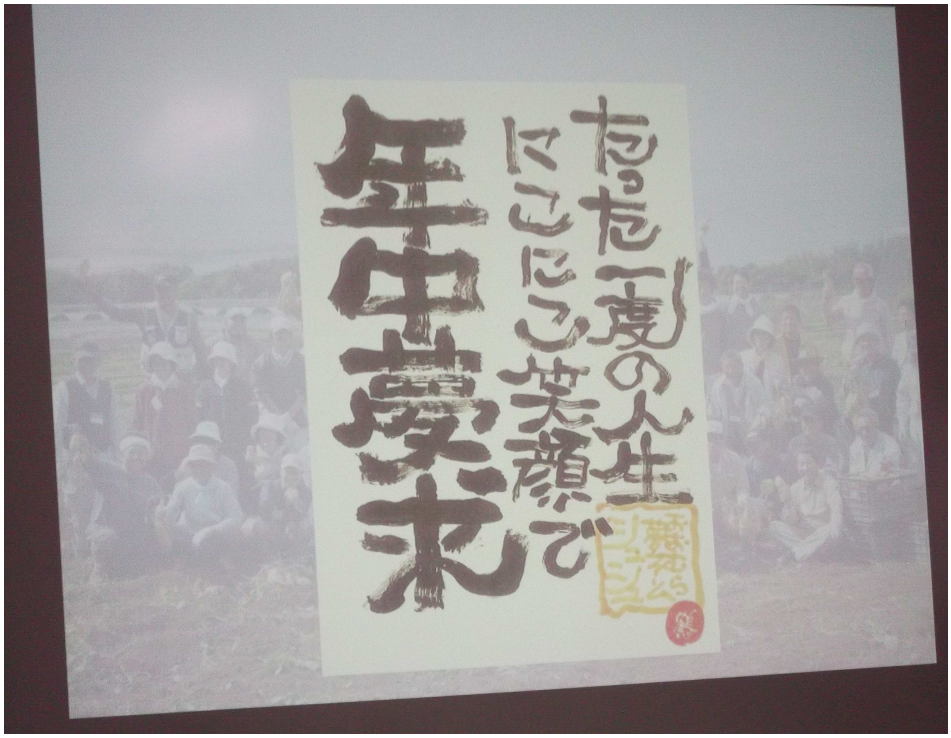
３　今後の課題

全国の農業従事者は 324 万人、日本の人口のわずか 3%余り、その内の 40%が 70 歳以上の高齢者、60 歳以上を加えると 70%に達し、次代を担うはずの 40 歳以下はわずか 13%である。

農業立県と言われる長崎県でも平成 12 年には 6 万人いた農業従事者はその後 5 年間で 13%減少している。シュシュでは、現在、農援隊の研修生 5 名を受け入れており、農業の基礎知識及び管理作業、加工・販売に至るまで一連の作業を通しての研修を行い、次世代の農業経営者の育成にも取り組んでいる。また、農業後継者の嫁不足は深刻な問題であるため、婚活イベントを毎月 1 回実施し、昨年度

16 組のカップルが誕生している。農業後継者を含めた若者に夢と希望を与えていける取り組みを今後どう取り入れていくかを模索中とのこと。

Ⅱ　視察所見

日光市の農業従事者は、視察地大村市同様に減少しつつあり、高齢化率においても毎年上昇してきている。また、農業後継者の嫁不足は深刻な問題になりつつある現状である。

これまでの農業の３Ｋは、「きつい、汚い、危険」だったが、今の３Ｋは、「高齢化、後継者不足、荒廃農地」とも言われる現在、シュシュが目指す観光農業で、お客様に感動を与え、後継者に希望を与えるという明るい３Ｋ産業として夢のある農業をしていかないと後継者は育たないし、生活が安定して成り立つような農業を提案し、どんどん実践していく活動力と、消費者も巻き込んで農業のファンを増やす取り組みは、私達の地域農業の今後に大いに参考にすべきと考える。